

解 答 一 覧

平成 29 年度 1次ステップアップ全国模試 経済学・経済政策

問題番号	解答	重要度	難易度	解 説 ページ	配点	自己採点		
						正解	不正解	得点
第 1 問	エ	★★★★	普	6P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 2 問	ア	★★★★	易	8P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 3 問	オ	★★★☆	普	10P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 4 問	ウ	★★★★	易	12P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 5 問	エ	★★☆☆	普	14P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 6 問	ウ	★★☆☆	易	16P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 7 問	ウ	★★★★	普	18P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 8 問	エ	★★★☆	易	22P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 9 問	ア	★★★☆	普	24P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 10 問	ウ	★★★★	難	28P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 11 問	エ	★★☆☆	難	32P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 12 問	エ	★★☆☆	普	36P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 13 問	ウ	★★☆☆	普	38P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 14 問	ウ	★★★★	普	42P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 15 問	ウ	★★★☆	難	48P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 16 問	エ	★★☆☆	普	52P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 17 問	イ	★★★☆	難	56P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 18 問	ア	★★★★	普	60P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 19 問	イ	★★★☆	普	66P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 20 問	イ	★★☆☆	普	70P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 21 問	エ	★★☆☆	難	76P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 22 問	エ	★★★★	普	80P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 23 問	エ	★★★★	易	86P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 24 問	エ	★★★★	易	88P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
第 25 問	ウ	★★★☆	普	92P	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

解答解説

「LEC1次ステップアップ全国模擬試験」の解答解説は、特に時間が貴重となる試験直前期において、受験生が一分一秒でも効率的に復習できるように設計しています。各問題は「問題＋解答＋解説」で構成されており、解説冊子だけで復習を完結することができます。ここでは、本冊子の主要なパーツについて解説いたします。

重要度

- ★★★ 絶対取りこぼしてはいけない論点
- ★★☆ 差がつく頻出論点
- ★☆☆ 解ければ高得点が期待できる論点

難易度

- 難 想定正答率が40%未満
- 普 想定正答率が40%~60%
- 易 想定正答率が60%以上

復習ボックス

復習に取り組んだ日付と、その際の正誤（○×）を記入するためのボックスです。重要度が高く、かつ間違えた問題から復習に取り組みましょう。

第1問

コンピュータの応答速度劣化をもたらす要因

重要度 ★★★
難易度 普

取組日	DATE①	DATE②	DATE③
正 誤			

出

題

内

容

業務においてコンピュータを長時間使用していると、応答速度が徐々に劣化することがある。コンピュータの応答速度劣化をもたらす要因、およびそれに対する対処方法に関する記述として最も適切なものはどれか。

ア 応答速度劣化は、主記憶装置に読み込んだプログラムが終了しても、使用したメモリを解放しない、メモリインタリーブという事象に起因することがある。

イ 主記憶装置のメモリ解放を行う機能をガベージコレクションといい、プログラミング言語によっては、ガベージコレクションが組み込まれているものがある。

ウ 主記憶装置において、可変長区画方式でプログラムを配置する場合、プログラムの大きさに応じてメモリ領域を割り当てることができるため、応答速度劣化を招く断片化は発生しにくい。

エ 仮想記憶の実装方式としてページング方式を用いる場合、長時間使用することでページフォルトが頻発するようになり、応答速度が劣化するスワッピングが発生することがある。

解答

ウ
(配点4点)

解答

問題の解答です。配点があるのでその下に記載されています。



解説

本問は、商品有高帳において商品の受入・払出を移動平均法で記録する場合の問題である。基本的な問題なので、正確かつ迅速に計算できるようにすること。

商品の払出単価を移動平均法で記入する場合、残高金額を数量で割って、金額を算出しなおして記帳を行う。よって以下の通り、次月繰越高は11,800円となる。
なお、売上金額は商品有高帳とは関係ないことに注意されたい。

商品有高帳

(単位：円)

日付	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
3	5 仕入	40	1,000	40,000				40	1,000	40,000
	10 売上				20	1,000	20,000	20	1,000	20,000
	17 仕入	30	1,300	39,000				50	1,150	59,000
	23 売上				35	1,180	41,300	15	1,180	17,700
	25 売上				5	1,180	5,900	10	1,180	11,800
	31 次月繰越				10	1,180	11,800			
		70	—	79,000	70	—	79,000			
4	1 前月繰越	10	1,180	11,800				10	1,180	11,800

よって、ウが正解となる。

(参考) 先入先出法で記帳した場合は、以下の通りになる。

解説

問題の解説は、解答の直下で行われます。各問題テーマを概論として述べた上で、個別選択肢の解説に入る方式がLEC流です。

第10問

IS-LM分析

重要度 ★★★ 難易度 難

取組日	DATE① 月/日	DATE② 月/日	DATE③ 月/日
正誤			

出題内容

IS-LM分析について述べた以下の記述のうち、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a 銀行が過剰準備を保有していない場合と比べると、銀行が過剰準備を保有している場合には、政府支出の拡大に伴うクラウディング・アウトが大きく発生する。
- b 銀行が過剰準備を保有していない場合と比べると、銀行が過剰準備を保有している場合には、政府支出の拡大に伴うクラウディング・アウトがあまり発生しない。
- c 貨幣の投機的動機に基づく需要を考慮せず、貨幣の取引需要のみを考慮した場合、政府支出が拡大されると完全なクラウディング・アウトが発生し、国民所得はまったく増加しない。
- d 貨幣の投機的動機に基づく需要を考慮せず、貨幣の取引需要のみを考慮した場合、政府支出が拡大されてもまったくクラウディング・アウトが発生せず、国民所得は大幅に増加する。

〔解答群〕

ア aとc イ aとd ウ bとc エ bとd

解答

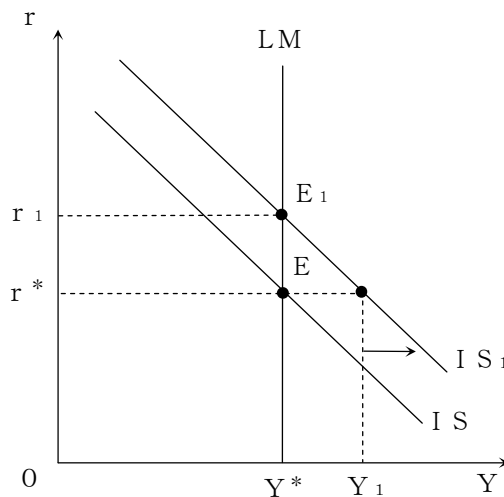
ウ

(配点4点)



本問は、IS-LM分析に関する応用問題である。図をイメージできるようにしながら、しっかりと理解しておくこと。

- a 適切でない。銀行が過剰準備を保有していない場合と比べると、銀行が過剰準備を保有している場合には、政府支出の拡大に伴うクラウディング・アウトがあまり発生しない。なお、クラウディング・アウトとは、政府支出の拡大に伴う利率の上昇によって民間投資が減少し、景気が一部後退してしまうという現象を意味する。
- b 適切である。銀行が過剰準備を保有している場合には、政府支出の拡大に伴う利率の上昇が鈍くなる。そのためクラウディング・アウトがあまり発生しない。
- c 適切である。貨幣の投機的動機に基づく需要を考慮しないということは、貨幣需要の利子弾力性がゼロとなりLM曲線が垂直に描かれることになる。このとき、完全なクラウディング・アウトが発生するので、国民所得がまったく増加しない。



- d 適切でない。この場合、完全なクラウディング・アウトが発生する。なお完全

なクラウドディング・アウトとは、政府支出の拡大と等しい分だけ民間投資が減少することを意味する。

よって、bとcが正しく、**ウ**が正解となる。

【MEMO】

第 11 問

資産効果

重要度 ★☆☆ 難易度 難

取組日	DATE①	DATE②	DATE③
	月/日	月/日	月/日
正誤			

出 題 内 容

フリードマンの資産効果に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。なお、公債の市中消化を仮定する。

- a 政府の公債発行に伴い政府や国民全体にとって資産が減少することになり、国民は将来の増税を予想し個人消費が減少する。
- b 政府が公債を発行すると政府にとっては債務が増加するが、国民にとっては資産が増加すると認識され、個人消費が増加する。
- c 政府の公債発行に伴い政府支出が増加すると、短期的には景気拡大の効果が見られないが、長期的には景気が拡大する。
- d 政府の公債発行に伴い政府支出が増加すると、短期的には景気が拡大するが、長期的には政府支出拡大前の景気に戻ることになる。

〔解答群〕

ア aとc イ aとd ウ bとc エ bとd

解答

工

(配点4点)



本問は、フリードマン（マネタリスト）の資産効果に関する問題である。難易度は高いが、できれば理解しておいてほしい論点である。IS-LM分析の図をイメージできるようにしておくこと。

マネタリスト（フリードマン）は、資産効果を考慮することにより、財政政策は短期的には有効であるが、長期的には無効となるとした。

ここでは、政府支出拡大の財源を市中消化による公債発行によって賄うとする。このとき以下の資産効果が発生する。

- [資産効果] → 公債は国の借金だが、国民にとっては資産である！！
→ 公債の発行
→ 国民にとって資産の増加

1. 消費の増加をもたらす：IS曲線の右シフト
(資産が増えると、消費も増えるであろう。)
2. 貨幣需要の増加をもたらす：LM曲線の左シフト
(資産が増えるとそれに見合う貨幣需要が増加)

貨幣＝安全資産 債券＝危険資産

危険資産（債券）が増えると、安全資産（貨幣）も同様に増やそうとする。

当初、経済は点Eにあるとする。

⇒ 公債発行による政府支出の増加 ($G \uparrow$)

⇒ まず国民にとって資産が増えるので消費が増える。

IS曲線の右シフト ($IS \rightarrow IS_1$)

⇒ さらに資産効果による貨幣需要Lの増加がみられる。

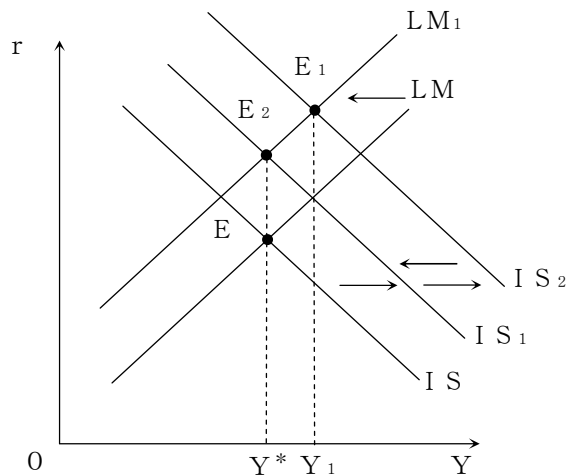
LM曲線の左シフト ($LM \rightarrow LM_1$)

⇒ さらに、乗数効果が働く。

⇒ 政府支出増加による乗数効果で個人消費が増える。

IS曲線の右シフト ($IS_1 \rightarrow IS_2$)

⇒ 以上より、短期の均衡点は E_1 となる。(国民所得は増加する。)



⇒ 次に、長期について説明する。

⇒ 乗数効果は長期的に持続しないと考える。

(建設会社 → Aデパート → Bデパート・・・は何年間も持続しない。)

⇒ 長期的には、IS曲線は左の方向にシフトをはじめ。

⇒ 一方、資産効果は長期的に持続する。

(公債の増加 → 資産の増加 → 消費の増加、貨幣需要の増加・・・は何年間も持続する。)

⇒ 長期な均衡点は E_2 となる。(国民所得は不変となる。)

- a 適切でない。 政府が公債を発行すると政府にとっては債務が増加するが、国民にとっては資産が増加すると認識され、個人消費が増加する。
 - b 適切である。 なお、資産の増加に伴い個人消費が増加することをラーナー効果という。
 - c 適切でない。 政府の公債発行に伴い政府支出が増加すると、短期的には景気が拡大するが、長期的には政府支出拡大前の景気に戻ることになる。
 - d 適切である。 市中消化に基づき政府支出が増加されても、景気対策として短期的には有効であるが長期的には無効となる。
- よって、bとdが正しく、エが正解となる。

第12問

Jカーブ効果

重要度 ★★★ 難易度 普

取組日	DATE① 月/日	DATE② 月/日	DATE③ 月/日
正誤			

出題内容

Jカーブ効果について述べた以下の記述のうち、最も適切ものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a 本国通貨安になった場合、短期的には貿易収支は改善し長期的には悪化してしまうという現象を意味する。
- b 本国通貨安になった場合、短期的には貿易収支は悪化するが長期的には改善するという現象を意味する。
- c 輸出の価格弾力性と輸入の価格弾力性の合計が短期的には1より大きくなるが、長期的には1より小さくなるために発生する現象である。
- d 輸出の価格弾力性と輸入の価格弾力性の合計が短期的には1より小さくなるが、長期的には1より大きくなるために発生する現象である。

[解答群]

ア aとc イ aとd ウ bとc エ bとd

解答

工

(配点4点)

解説



本問は、Jカーブ効果に関する問題である。重要度は決して高くはないが、マーシャル＝ラーナー条件との関係も含めて一通り理解しておいてほしい。

- a 適切でない。 自国通貨安になった場合、短期的には貿易収支は悪化し長期的には改善するという現象をJカーブ効果という。
- b 適切である。 自国通貨安になり海外での販売価格が下落するが、短期的には輸出量は契約により変更できないとすれば輸出額は減少し貿易収支は悪化してしまう。一方、長期的には輸出量は大幅に増加すると考えられるため輸出額は増加する。
- c 適切でない。 Jカーブ効果は、輸出の価格弾力性と輸入の価格弾力性の合計が短期的には1より小さくなるが、長期的には1より大きくなるために発生する現象である。
- d 適切である。 輸出の価格弾力性と輸入の価格弾力性の合計が1より大きいという条件をマーシャル＝ラーナーの安定条件という。
よって、bとdが正しく、工が正解となる。